

令和3年度
教育委員会事務事業の点検評価結果
最終報告書

令和4年7月
安八町教育委員会

I はじめに

1 教育委員会事務事業の点検・評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成19年に一部改正され、教育委員会の事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することとされました。また、点検・評価を行う際には、学識経験者の知見の活用を図ることも規定されています。

そこで、当委員会としては、次年度の事務執行に資するため、当該年度の事務について自己点検及び評価を行い、点検報告書としてまとめ報告いたします。

(参考)

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検・評価の実施方法について

1 評価の対象

教育委員会が令和3年度に実施した事務事業の中から主要なものを抽出し評価を実施する。

- ・教育委員会の活動状況：教育委員会会議の実施状況、調査活動の状況等
- ・教育委員会の事務事業：安八町教育計画に掲げる重点目標の執行状況及びその成果
- ・前年度の点検評価結果への対応状況：前年度の点検評価結果において次項による達成度の評価がCまたはDとされた事務事業等に対する対応の状況

2 評価の進め方

①一次評価

各学校及び安八町教育計画重点目標に対する評価を行い、その結果を踏まえて事務局各課がその所管する事務事業等について第一次評価を行う。

②二次評価

一次評価をもとに、評価委員により二次評価を実施する。

評価委員 4名	学識経験者	渡邊 二郎 様
	学校関係者代表（安八町校長会長）	古市 諭香 様
	保護者代表（安八町PTA代表）	棚橋 一智 様
	地域関係者代表（安八町商工会長）	高田 英雄 様

③最終評価

教育委員会は、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、最終評価を実施し報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表を行う。

3 評価の基準

点検評価においては、次の4区分により達成度の評価を行う。

評 定		評 価 区 分
A	75%以上	順調に達成しているもの
B	65%以上75%未満	おおむね順調に達成しているもの
C	55%以上65%未満	達成見込みであるが課題があるもの
D	55%未満	順調でないもの

(平成30年度改定)

III 評価結果の概要

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議の実施状況・・・(A) 順調に達成している
調査活動の状況等・・・・・・・・(A) 順調に達成している

2 事務事業の執行状況

主な施策・事業より21の事業(昨年度より1事業増)を対象に点検評価を実施した。
評価の結果は、以下の通り。

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| (A) 順調に達成しているもの・・・・・・・・ | 10事業 / 21事業中 R2 (13事業) |
| (B) おおむね順調に達成しているもの・・・・・・・・ | 11事業 / 21事業中 R2 (8事業) |
| (C) 達成見込みであるが課題があるもの・・・・・・・・ | 0事業 / 21事業中 R2 (0事業) |
| (D) 順調でないもの・・・・・・・・ | 0事業 / 21事業中 R2 (0事業) |

3 点検評価結果の内容について

◇教育委員会の活動状況について

点検項目	実 績	成 果 (○) と 課 題 (▲)	評価
安八町教育委員会 会議の実施状況	1. 教育委員会定例会議 12回 臨時会議 2回 <臨時会議の内容> ・教務主任等承認について ・令和3年度中学校教科用図書 採択に向けて <審議継続中> ・教育大綱について ・スクールスポーツプラット フォーム構想について 2. 安八町総合教育会議 2回 (うち1回(4月)は紙面決裁) 町長・副町長 教育長・教育委員 事務局：教育委員会, 福祉課	○毎月の定例会において、協議等を確実に実施できた。児童生徒の問題行動については、問題行動の背景を知ること、一人一人に応じた指導を行うことの重要性についてアドバイスを受けた。また、不登校児童生徒への対応について、継続的に教師が関わり続けることの大切さについて助言を受けた。 ○コロナ禍において、何事も廃止するだけでなく、実行可能な活動を工夫することで児童生徒に考え工夫する力を身に付けさせることの助言を受けた。 ○学校から全国学力学習状況調査の成果と課題について説明があり、学力の現状と今後の指導の重点について、周知を図った。教育委員からは、一人一人の学力に応じた指導の大切さと、また低学力の児童生徒には根気強く指導が大切であるとの助言を受けた。	A

点検項目	実 績	成 果 (○) と 課 題 (▲)	評価
	<p>3. 教育委員の学校訪問 学校訪問等で、年1回定期的に実施</p>	<p>○コロナ禍ではあったが、町内4校のすべての学校を訪問し、生徒の様子や教員の教科指導、生徒指導のあり方について指導助言を受けた。</p> <p>○情報教育の現状を見て頂き、低学年もタブレットを積極的に活用している様子や教師が ICT 機器を駆使して活用している様子を参観された。</p> <p>○生徒指導面で見逃されている姿が散見されることへの指摘を受け、一人一人を大切にした指導について助言があった。</p>	
<p>調査活動の状況等</p>	<p>○町の教育委員会視察 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止</p> <p>○教育委員研修の参加 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、計画されていた各種研修はすべて中止</p> <p>○町内学校訪問や校長との懇談 ・9月から10月にかけて各校1回実施</p> <p>○教育研究大会の参観</p> <p>○学校諸行事等の参観 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、各種学校行事への参観は自粛した</p>	<p>▲教育委員会視察は、すべて中止となり、代替の行事を実施することができなかった。</p> <p>▲感染症防止対策を進めながら、主体的、対話的な深い学びを生み出す授業づくりについての助言、指導が十分でなかった。令和4年度は、GIGA スクール構想導入タブレット等を活用した深い学びの創造に尽力したい。</p> <p>○今までの学校行事等を中止するのではなく、児童生徒のアイデアや願いを大切にしながら、コロナ禍でも可能な方法を模索して実施することができた。また、卒業証書授与式への参列を控え、紙面にて教育委員会告辞を配付し、卒業生の門出を祝福した。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>

◇事務事業の執行状況について（教育計画の評価）

<学校教育>

領域	重点目標	成果（○）と課題（▲）	評価
1. 学校運営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲業務量に偏りがあるため、時間外勤務が増加している教職員がいる。</p> <p>→時間外勤務を減らそうという意識が高まり、職員間で声をかけあって月45時間を守るために努力することができた。</p> <p>→コミュニティースクールを活かして、地域の方の協力を得ることができ、タイムマネジメントを意識して業務を行うことができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○定期的なストレスチェックの実施によって、自分自身を様々な面から振り返るよい機会となった。</p> <p>▲時間は減ってきているが、業務量が減っているとは言えず、業務の精選、削減をしていく。</p> <p>▲学校評価の結果を分析し、指導改善に向けて家庭や地域に積極的に情報を提供していく。</p>	<p>□A</p> <p>80.8% (+4.0)</p> <p>昨年度 A</p>
2. 研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲研修で学んだことを具体的に実践したり、関係職員で協議したりしながら、深まりのある教育活動を展開すること。</p> <p>→校内研修や町職員研修会などに参加し、授業力向上に努めることができた。</p> <p>→情報主任を中心とした校内研修や学年内の主体的な学び合いの場を通して、どの学年もタブレット端末を活用した授業作りやオンラインへの対応について学ぶことができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○リモートによる研修を通して、コロナ禍においても研修をスムーズに実施することができた。</p> <p>▲ICTを活用した授業をより一層促進するために、教科部会や町内等で実践例を共有したり、外部の専門機関の研修を実施したりして、ICTの利活用に関わる指導力の向上を高めていく。</p>	<p>□A</p> <p>79.0% (+3.2)</p> <p>昨年度 A</p>
3. 教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲「方法を知る」ではなく、「指導の意図」を理解して、授業づくりを考えること。</p> <p>▲学習内容が分からなくて困っている児童生徒へのフォローアップの在り方について検討し、実践すること。</p> <p>→ペア交流やグループ交流などを意図的に位置付け、話形を示して話し合いを進めたことにより、仲間から学び合い、考えを深めさせることができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○本時のねらいと学習内容を踏まえ、授業の終末に評価問題を位置付け見届けることで、学力の向上に努めることができた。</p> <p>▲お互いの見方や考え方を学び合うことができるように、交流活動の視点の明確化や、発問の工夫が必要である。</p> <p>▲全体指導の中で、つまづいている児童生徒に対して、全員が「できた・分かった」を実感できる授業にするための具体的な手立てを工夫する。</p>	<p>□A</p> <p>75.5% (+0.9)</p> <p>昨年度 B</p>

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
4. 道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心をもち、かけがえない自他の生命を尊重する心を育てる	<p>【令和2年度課題】 ▲道徳教育推進教師が、自校の道徳教育においてリーダーシップを発揮すること。 ▲小中連携、家庭地域との連携を図ること。 →各担任の授業力に任されており、組織的な校内研修を充実させて、児童生徒の見方や考え方を広げさせ、行動力を身に付けさせる授業力を育成していく必要がある。 →実際の場面での道徳性を高めるために、家庭と地域との連携がより一層必要である。</p> <p>【令和3年度成果と課題】 ○年間指導計画に基づいて、生徒の実態に即した授業を実施することができた。 ▲教師間で積極的に道徳の授業を公開し、学校全体として「考え、議論する道徳の授業」への指導力を高める必要がある。</p>	<p>B 71.6% (+0.7)</p> <p>昨年度 B</p>
5. 小学校 外国語活動	外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	<p>【令和2年度課題】 ▲一人一人の教師が、外国語活動、外国語科の指導スキルを高めること。 →英語専科の教師が中心となり、英語技能を育成する継続的な指導をすることができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】 ○英語専科の教員とALTの連携により、専門性の高い授業を行うことができた。 ▲英語専科以外の学級担任が指導力を身に付けるためにお互いに授業参観を行うなど研修の充実を図る必要がある。</p>	<p>A 77.7% (+1.3)</p> <p>昨年度 A</p>
6. 総合的な 学習の時間	探究的な学習をとおして、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	<p>【令和2年度課題】 ▲学んだことを自己表現する活動、自分の学びを見つめ直す活動を位置付け、学びを深化させていくこと。 ▲学年間の学び方についての系統性を検討すること、小中連携を図ること、地域の教育力を活かすことを進めること。 →テーマに沿って活動を進めることができたが、学んだことを実際の場面で活かす体験活動を十分に行うことができなかった。</p> <p>【令和3年度成果と課題】 ○学年毎に、年間指導計画に基づいて学習を進めることができた。 ▲子どもたちが主体的に取り組むことができる課題設定をして、探求的な学習過程を仕組むことが不十分であった。</p>	<p>B 70.9% (-2.7)</p> <p>昨年度 B</p>
7. 特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる	<p>【令和2年度課題】 ▲児童生徒の自己肯定感を高める手立て、見届けを検討し実践すること。 →学級活動の中でお互いに認め合う場面があり、自信をもつことができ、協力しあう人間関係の形成に繋がってきた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】 ○行事において、何のために行うかが明確になっており、ねらいに基づいて振り返りを実施することができた。 ▲委員会活動が単発となっており、子どもたち自身の思いや活動への願いが継続できておらず、生徒主体の活動を実施させることができなかった。</p>	<p>A 78.0% (+2.2)</p> <p>昨年度 A</p>

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
8. 生徒指導	共感的な理解に徹し、よりよい人間関係の形成と自己指導能力を育てる	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲諸問題が発生する前に、学校の対応について、共通理解、共通行動がとれるようにすること。</p> <p>▲教職員一人一人の「生徒指導」に係るスキル向上を図ること。</p> <p>→「にっこりアンケート」(心のアンケート調査)等を通して、定期的に子どもたちの悩みを表出する機会を通して、児童生徒の様相を掴み、早期に対応できる体制が作りに努めた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○配慮の必要な児童生徒に関する情報を共有し、共通認識をもって指導する方向付けができた。</p> <p>○他の関係機関との連携、保護者への対応を丁寧に慎重に行い、気になる段階において教員間で連絡を取り合いながら、組織的な対応をすることができた。</p> <p>▲要支援児童や保護者の対応に難しさを感じている教員が多いため、職員研修等を通して、特別に配慮を要する児童生徒への対応力を身に付ける必要がある。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>85.1% (+3.8)</p> <p>昨年度 A</p>
9. キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲進路指導主事(特別活動主任)が、自校のキャリア教育において、リーダーシップを発揮すること。</p> <p>▲今後「キャリアパスポート」をどのような位置付けとして蓄積していくのか、小中をどのようにつなぐのかを検討すること。</p> <p>→キャリアパスポートへの記入が習慣化され、達成目標に応じて新たな目標を立てさせたり、頑張りや成長を感じさせたりすることができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○キャリアパスポートを保護者と共有し、三者懇談資料として、具体的な成長について話をすることができた。</p> <p>▲キャリアパスポートへの記入をさらに充実させるため、自分の夢や近い将来の生き方を考えさせる指導を充実する必要がある。</p>	<p>Ⓑ</p> <p>70.6% (+1.3)</p> <p>昨年度 B</p>
10. 健康・安全教育	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲衛生指導の徹底、体力づくりを両立させること。</p> <p>▲児童生徒が自ら感染症予防対策を「当たり前」に実践できるように育てていくこと。</p> <p>→新型コロナウイルス感染症への指導を確実に実施することで、児童生徒が、継続的に衛生面に気を付けて生活させることができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○命を守る訓練やコロナ感染症予防などを通して、健康で安全に生活することの大切さについて、より一層の指導をすることができた。</p> <p>○家庭教育学級で食育について、考える機会とすることができた。</p> <p>▲コロナ禍もあり、体力の低下が伺える。感染症対策に十分留意しながら、可能な限り運動できる授業を仕組んでいく必要がある。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>80.7% (+4.3)</p> <p>昨年度 A</p>

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
11. 特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づいた指導、支援を、関係する教職員が確実に実践すること。</p> <p>▲共生社会の実現に向け、特別支援学級と通級指導教室で学んでいる児童生徒に対する理解を深めること。</p> <p>→個別の支援計画を基に、教師と本人、保護者との連携が図れ、学校内で共通認識・共通行動をすることができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○関連機関との連携を密にし、児童生徒が最適な指導を受けることができるように、努めた。</p> <p>▲支援計画の内容をより焦点を絞ったものにするこゝとで、ねらいを明確にした対応をする必要がある。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>80.7% (+2.4)</p> <p>昨年度 A</p>
12. ふるさと教育	ふるさと(地域・安八町・岐阜県)への誇りや愛着を育てる	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲自校の「ふるさと教育」で目指す児童生徒像を明確にし、カリキュラムを再構築すること。</p> <p>▲学習のねらいにせまるために効果的な地域人材の発掘を図ること。</p> <p>→田植えや防災学習、天文学習において、地域の方を講師として招き、ふるさとの良さなどを学習させることができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○コロナ禍において、校外学習を実施することはできなかったが、タブレットを活用して、ふるさとの情報を調べさせることができた。</p> <p>▲学校運営協議会と協力して、ふるさとの歴史や文化などを学ぶ機会を設定していく。</p>	<p>Ⓑ</p> <p>70.2% (+3.5)</p> <p>昨年度 B</p>
13. 人権教育	相手の立場や権利を重んじ、正しい認識に立って公正・公平に判断し行動できる児童・生徒の育成	<p>【令和2年度課題】</p> <p>▲「他者と自分を大切にすること」について、継続的に考えさせたり、指導したりすること(「人権教育」は、「命の教育」にもつながることを、指導者は常に意識して児童生徒と関わること)</p> <p>▲学校から発信している「学校だより」や「学年、学級通信」の話題について、「人権尊重」という視点も意識して作成すること。</p> <p>→帰りの会やお昼の放送において、子どもたちの頑張る姿を紹介することによって、普段認められない人も認められ、自己有用感を感じさせることができた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○人権週間では、温かい言葉を仲間と掛け合うことを通して、日常生活における自分たちの言葉遣いについて見つめ直すことができた。</p> <p>▲人権に関わる取組状況を地域の方にも発信し、地域の方々にも学校での取組に理解を促すことが必要である。</p> <p>▲人権教育の観点を明確にした授業実践を行うことが必要である。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>77.5% (-1.7)</p> <p>昨年度 A</p>

生涯学習・社会教育

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
1. 家庭の教育力の向上	学びのある家庭教育学級を通じた家庭の教育力向上	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲取り組み形式が毎年同じにならないよう会員のニーズを十分に把握し、工夫する必要がある。 →家庭教育学級役員会やリーダー研修をとおして、内容の充実と拡大を進めた。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○コロナ禍の中にあっても、できることを模索し推進するため、在宅での取組やオンライン配信などの形式を見だし取り組むことができた。</p> <p>▲対面での活動や集会形式の場は実現できず、同時に、家庭教育支援体制を充実させること(支援員、アドバイザー等の発掘や育成)ができなかった。今後、乳幼児から小中学校での家庭教育学級など、幅広く支援体制を築く必要がある。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">69.3% (-5.7)</p> <p style="text-align: center;">昨年度</p> <p style="text-align: center;">A</p>
2. 地域社会の教育力の向上	社会教育団体との連携の強化	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲地域学校協働活動の位置付けを明確にし、早期に組織化を図る必要がある。 →研修会への参加を促し、行政・学校・地域の連携による活動を見直し、活動を効果的に仕組む</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○各小中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティースクールがスタートし、同時に地域学校協働活動推進本部を立ち上げ、地域づくり型生涯学習の体制づくりができた。</p> <p>▲推進本部を立ち上げたものの、やはりコロナ禍の影響で各種行事や活動を予定通りには実施できなかった。そのため、多くの場面で効果を実証できなかった。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">75.0% (0)</p> <p style="text-align: center;">昨年度</p> <p style="text-align: center;">A</p>
3. 子どもたちを見守り育む環境づくりの推進	青少年育成関係団体の主体的な活動への支援	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲「思いやりのある町づくり運動」、「1家庭1ボランティア活動」など町や県と連携して進めるべき内容が十分各家庭や地域に浸透しなかった。 →青少年の豊かな人間性を育む青少年育成団体の主体的な活動を積極的に支援する。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○プラネタリウムや出前講座など小学校での学習支援は、昨年度より回数が増え、中学校では新たに天文講座を行うことができた。</p> <p>○ぬくもりと安心を与える木製遊具を主軸として、手作り遊具を増やすなど、親子間や友だちと一緒に楽しめる温かい環境作りを心がけ、その場に応じた見守りや言葉かけに努めた。</p> <p>▲一般向けの星見会や天文教室・星まつりはコロナ禍により、少なからず中止となったが、コロナ対策を行いつつ、星空案内養成講座やジュニア文化サークルの活動をつづけていくことができた。</p> <p>▲日常の制限下の中で利用者の減少傾向がみられた。感染症対策をしっかりとした上で、利用者が安心して利用してもらえるよう対策をし、PRしていきたい。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">69.7% (-3.3)</p> <p style="text-align: center;">昨年度</p> <p style="text-align: center;">B</p>

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
4. 主体的な学習活動への支援	<p>地域社会における人材の情報の収集、活用の推進</p> <p>中央公民館・ハートピア安八等生涯学習施設による学習機会の充実</p> <p>図書等図書館資料の幅広い収集と提供</p> <p>安八つたえ話やてるて姫伝説の紙芝居を活用した取り組みの推進</p>	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲ふるさと題材の講座メニューや伝統文化継承に関わる活動広めていくことが難しかった。図書館・郷土資料館の資料の収集は十分とはいえない状況で、施設としての魅力向上に向けた取組が必要である。</p> <p>→広報活動をとおして、情報発信を積極的に行ったり、ガイドブックのデザインや内容を精査し、情報が多くの方々に伝わるようにする。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○ふるさと教育の推進については、小中学生を対象とした出前講座や施設見学を実施し、郷土に対する学習の場を提供することができた。</p> <p>○時間や予算が制限される中で、可能な範囲で工夫しながらサービスの提供はできた。</p> <p>▲学習の場の数は十分とは言えず、更に多くの児童生徒に歴史民族資料や郷土の先人に触れる機会を提供していくことが課題として残る。</p> <p>▲新型コロナウイルス感染症の流行と対策措置の影響で、臨時休館や時間制限があり、サービスの提供が限定されたり、対面のイベント(読み聞かせなど)は実施できないものがあった。制限の中でもできることを模索していく必要がある。</p> <p>▲図書館のHPやTwitterで、毎月の展示コーナーや企画展示等、図書館からの情報発信を図っていきたい。</p>	<p>B</p> <p>69.0% (+0.7)</p> <p>昨年度 B</p>
5. 人権尊重の教育の推進	<p>生涯学習講座、家庭教育学級、出前講座等での人権学習の位置付け</p>	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲より多くの場で人権教育に関わる情報提供と学習機会を増やしていく必要がある。</p> <p>→人権問題解決に関わるふれあい体験学習や、様々な講座での人権学習の位置付けを行う。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○人権教育を推進する場の位置づけを明確にした計画をたてることができた。</p> <p>▲計画はあったものの活動自体に制限がかかり、人権学習そのものの進展はあまりみられなかった。</p>	<p>B</p> <p>65.0% (-0.6)</p> <p>昨年度 B</p>
6. スポーツ振興	<p>親子・三世代を対象にした家庭参加型プログラムの提供</p> <p>健康の維持・促進のためのスポーツ教室の開催</p> <p>スポーツ施設の管理・調整と利用促進各種スポーツ事業、行事・研修会等の広報活動の充実</p>	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲スポーツと健康づくりに対する強い関心と要望に応えられる指導者の確保、施設用具の充実策を具体化することが強く求められる。また、町民のニーズにあうプログラムの提供をめざし、各種団体と連携して、講座・イベントの更なる充実を図る必要がある</p> <p>→既存のスポーツ器具・施設を生かしたスポーツ教室等のイベントを開催する。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○限られた条件の中ではあったが、住民のニーズを生かしたプログラムの提供し、スポーツ教室等のイベントを企画できた。</p> <p>▲コロナ感染予防措置のため、時間制限や開催制限があり、活発な活動へと繋げることができなかった。安全に留意しつつ、実現可能なイベント形態を探っていく必要がある。</p>	<p>B</p> <p>74.5% (-0.5)</p> <p>昨年度 A</p>

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
7. 文化芸術活動の振興	ジュニア文化サークルの学習, 体験活動, 学習発表会の充実 文化団体の育成と支援	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲年齢を問わず町民が文化的に関わることが出来る機会をしっかりと確保していくことが必要があり、特に、多くの幼児, 児童, 生徒が希望通り参加できる枠組みを作ることが必要である。 →ジュニア文化サークル, 文化事業, 夏休み親子教室, 短期教室の魅力ある企画作りと内容の充実を図る。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○ジュニア文化サークルの活動は、町民全体に広く評価されており、数々の制限の下でも、優れた成果を残したが、その成果を発表・披露する場がなかったのが非常に残念。</p> <p>▲文化育成の伝統として活動を続けてきたジュニア文化サークルの活動を、参加者の安全を確保しつつどのように実現していくかを探っていく必要がある。</p>	<p>□B</p> <p>74.6%</p> <p>(-0.4)</p> <p>昨年度 □A</p>
8. 文化財や伝統芸能の継承・発展	町民のニーズにあった企画運営や多角的な文化情報提供の推進	<p>【令和2年度の課題】</p> <p>▲町民の関心を高めるための魅力ある展示の工夫, 歴史民俗資料庫の見学や資料貸出を促進する。 →毎月発行のたよりをとおして文化財等の紹介をする。常設展及び希望されたテーマに応じた講義を開設する。</p> <p>【令和3年度成果と課題】</p> <p>○安八町にゆかりのある人の紹介展示は継続実施できた。</p> <p>▲常設展示の入れ替えなど展示資料の鮮度を維持していくことが課題として残った。</p>	<p>□B</p> <p>65.5%</p> <p>(-0.5)</p> <p>昨年度 □B</p>